

# 表 紙

## 平成29年度 事業報告書

説明順序	事業所課名	説明順↓
①	特別養護老人ホーム 久喜の里(従来型) 50床 短期入所生活介護事業所 久喜の里(従来型) 10床	
②	特別養護老人ホーム 陽日館(ユニット型) 50床 短期入所生活介護事業所 陽日館(ユニット型) 空床型	
③	看護課(特養 久喜の里、陽日館)	
④	栄養課(特養 久喜の里、陽日館)	
⑤	通所介護事業所(デイサービス) 久喜の里 定員35名	
⑥	訪問介護事業所 久喜の里	
⑦	居宅介護支援事業所 久喜の里	
⑧	地域における公益的な取組	
⑨	久喜市委託事業(いきいきデイサービス)(久喜市生活援助サービス)	
⑩	特別養護老人ホーム 喜びの里鷺宮(ユニット型) 100床	
⑪	短期入所生活介護事業所 喜びの里鷺宮(ユニット型) 空床型	
⑫	看護課(特養 喜びの里鷺宮)	
⑬	栄養課(特養 喜びの里鷺宮)	
⑭	地域密着型 通所介護事業所 喜びの里鷺宮 定員18名	

社会福祉法人 茂樹会

1. 平成29年度の事業実績概要

平成29年度の特養久喜の里およびショートステイ久喜の里は、利用者様が安心・安全に生活できることを第一に考え、事業を計画しました。その1年間の事業実績をご報告いたします。

はじめに、平成29年度の事業計画目標および実績を報告します。

- |                            |  |
|----------------------------|--|
| ①入所・利用率(長期・短期).....96%以上   | 実績:96.4%                                   |
| ②ヒヤリハット発見件数.....対前年比5%増    | 実績:対前年比▲12%<br>(平成28年度1,946件⇒平成29年度1,712件) |
| ③利用者満足度調査の実施.....年1回       | 実績:1回                                      |
| ④地域外出への取り組み.....年16回以上     | 実績:16回                                     |
| ⑤地域貢献事業の実施.....年1回以上       | 実績:9回                                      |
| ⑥内部研修会・内部勉強会の実施.....年13回以上 | 実績:44回                                     |
| ⑦介護福祉士資格取得目標.....2名        | 実績:1名                                      |
| ⑧光熱水費・備品コスト削減              | 実績:排泄用品・日用品・布オムツ・清拭用品は<br>前年よりコスト削減達成      |

以上

入所・利用率については、長期入所者の利用率は93.9%だったが、ショートステイ利用者を確保できて、短期入所利用率は109%となった。よって空床利用を使い、全体で96%を上回る実績となった。次年度もショートステイ利用者を確保し、入院等で空いているベッドを活用しながら、多くの方々にご利用していただけるよう取り組んで参ります。

介護現場での「防げた事故」をなくしていくために、ヒヤリハット情報の収集、分析を行ってきましたが29年度はヒヤリハット情報件数が減りました。この目標は、増減が目的でなく、職員が日頃から危険予知の意識を持ってケアを行うことを目的としています。次年度も、目標もって意識を高めながら取り組んでいきたいと思ひます。

また、コスト管理を現場の職員レベルで意識をしていくことで効果が表れている。平成24年度から排泄用品・日用品・清拭類のコストを現場に周知していき、担当者を中心に毎年度コスト削減を成功してきています。また、コストが上がるには要因が明確になれば「必要コスト」として捉えていきます。必要なものと無駄なもの、節減できるものを見極めながら「適正なコスト」管理を行っていきます。

さいごに、今後も「職員の確保」と「職員の質」の課題に取り組んでいき、良い人材と出会い、定着していただくための職場環境と職員の質が上がる環境づくりを、常に探究し実践していきます。ご利用者そして職員と、双方にとって良い環境が生まれるよう取り組んでいきたいと思ひます。

2. 備考欄

- ・シャワー浴槽について:経年劣化により、h29.11新機種を導入する。
- ・チェアイン浴槽について:経年劣化により、助成金を活用し新機種導入の手続き(H30.4に導入予定)
- ・汚物処理器機について:経年劣化により、h29.9新機種を導入する。

1. 平成29年度の事業実績概要

平成29年度の特養 陽日館および空床型ショートステイ陽日館は、利用者様が安心・安全に生活できることを第一に考え、事業を計画しました。その1年間の事業実績をご報告いたします。

はじめに、平成29年度の事業計画目標および実績を報告します。

①入所・利用率(長期・短期).....98%以上	実績:97.05%
②ヒヤリハット発見件数.....対前年比 10%増	実績:対前年比 ▲3.5%
③利用者満足度調査の実施.....年1回	実績:1回
④地域外出への取り組み.....年8回以上	実績:12回
⑤地域貢献事業の実施.....年1回以上	実績:9回
⑥内部研修会・内部勉強会の実施.....年12回以上	実績:31回
⑦介護福祉士資格取得目標.....2名	実績:2名
⑧光熱水費・備品コスト削減	実績:排泄用品・布オムツ・清拭用品・日用品 コスト削減達成(前年対比)

以上。

入所・利用率については、長期入所者の利用率は94%だったが、空床ショートステイ利用者を確保し、全体で97.05%の実績となりました。目標の98%には届かず、次年度もユニット利用者の確保や空床利用の推進を強化しつつ、多くの方にご利用いただき利用率を向上させていきたいと考えます。

事故防止への取り組みも、少しずつ職員に意識づけをおこないました。ヒヤリハット情報の大切さ、様々なことへの”気づき”を養うよう職員育成をおこなってきました。30年度も引き続き、リスクマネジメントの一環としてヒヤリハット情報の収集・分析・周知に取り組んで参ります。

また、コスト管理を現場の職員レベルで意識をしていくことで効果が表れている。平成27年度から排泄用品・日用品・清拭類のコストを現場に周知していき、担当者を中心に毎年度コスト削減に取り組んでいます。また、コストが上がるには要因が明確になれば「必要コスト」として捉えていきます。必要なものと無駄なものを、節減できるものを見極めながら「適正なコスト」管理を行っていきます。

さいごに、今後も「職員の確保」と「職員の質」の課題に取り組んでいき、良い人材と出会い、定着していただくための職場環境と、職員の質が上がる環境づくりを、常に探究し実践していきます。ご利用者そして職員と、双方にとって良い環境が生まれるよう取り組んでいきたいと思ひます。

2. 備考欄

・6丁目特別室について:一部壁紙クロス補修工事を実施

## 1. 平成29年度の事業実績概要

平成29年度は、肺炎や誤嚥性肺炎の予防を重点的に取り組み支援させていただきました。

肺炎を予防することに対しては昨年同様、体調不良時は無理のない範囲で食事を提供したり、痰絡みのある利用者様は、頭部をギャッジアップして臥床対応をさせて頂きました。対象者で希望の利用者様には嘱託医により肺炎球菌ワクチンの予防接種をしました。しかし、残念ながら年間の入院者数の47%を占める27名の入院者がでてしまいました。利用者様の年齢などを考慮しますと肺炎・細菌性肺炎・誤嚥性肺炎は防ぎきれないこととも思われますが、これらの取り組みを行うことによって、入院される方が少しでも減少されるように支援させていただきます。

外来受診については嘱託のあかりクリニックをはじめ22の医療施設に受診しました。ご家族様の協力を得て全体の49.5%(163件)がご家族様対応での受診でした。今後も利用者様の状態をしっかりと報告し、スムーズに受診できるように支援させていただきます。

また、29年度は昨年と違いインフルエンザに罹患した利用者様はおりませんでした、昨年を踏まえインフルエンザの予防接種を10月12日に早めに接種することができました。また、体調不良時は早めに対応するよう心がけました。施設内で感染症が流行しないよう繰り返し研修し、実践していきたいと考えています。

## 2. 備考欄

利用者さまの体調に応じて、「できるだけ久喜の里で過ごしたい」と希望されるご家族様の意向があり、数名の利用者様にできる限り久喜の里で過ごしていただき、多くの事を教えていただく機会となりました。「安心」や「安楽」のためにたくさんのご意見やご提案をいただくことができました。そのように、ご家族様との信頼関係を築きあげていくことが大切であると考えます。

30年度も施設看護師として、ご家族様や他職種と連携しながら、ご利用者様の生活を支援していきたいと思っております。

栄養課

1. 平成29年度の事業実績概要

栄養課は、「思いやりの心であったかい介護」という当施設の理念に基づいて、ご利用者様が安心安全に楽しく食事を摂り、それが健康維持につながるように、事業を計画しました。その1年間の事業実績をご報告いたします。

① 栄養管理の実施

- ・実施給与栄養量は給与栄養目標量を適正に満たしました。
- ・栄養ケア計画書 …………… 100%実施  
スクリーニング・アセスメント・モニタリングを行い、食事摂取量の低下、体重の増減などから低栄養の可能性のある人は、看護課、介護士に相談し栄養補助食品を追加したり形態を変えたり、嗜好にあったものを提供するなど工夫をしました。
- ・療養食加算、経口維持加算は医師の指示のもと、他職種協働で適正に実施しました。

・(栄養評価)

低栄養状態	低リスク	中リスク	高リスク	介護度
久喜の里	70%	26%	4%	4.3
陽日館	68%	28%	4%	3.8
平均	69%	27%	4%	4.1

栄養状態は、昨年と大きな変動はないようですが、高リスクの低栄養状態の方が久喜の里、陽日館で、入退院を繰り返している方、病態により低栄養状態の方、高齢で身体機能低下され食事が摂れない方等4名3月末現在いらっしゃいます。

② 食事サービスの充実

- ・行事食は、季節感のある食材を使用し、年中行事、各部門の行事に合わせ実施しました。満足度を観察、ご利用者様にお話伺い次回の行事食を見直しています。
- ・食事に変化を出すために「お楽しみ献立」を導入し、年12回実施。  
いつもと違ったお食事で、楽しんで頂きました。
- ・食事の個別対応で、代替食の提供や、希望する食べ物(パン、素麺、ラーメン、鰻、ヨーグルト、お菓子、コーヒー、揚げ物等)を個々の提供方法で実施。喜んで頂いたり、食事意欲が向上したりしました。
- ・その他、喫茶、実演おやつ、手作りおやつ、手作り昼食、出前を楽しんで頂きました。
  - (久喜の里) ホーム喫茶 12回実施
  - 出前 18回実施
  - 実演おやつ 2回実施
  - (陽日館) 手作りおやつ、昼食 6回実施
  - 出前 9回実施
  - ホーム喫茶 参加 12回実施
  - 外食 2回実施
  - (デイサービス) 手作りおやつ 18回実施
- ・給食会議……毎月1回実施。給食に対する意見、要望把握し給食の改善に努めました。
- ・嗜好調査……(陽日館) 10月実施。利用者の食事に対する嗜好、要望把握し対応しました。  
(久喜の里) ケアカンファ時に個別で嗜好、要望把握対応しました。

※個別の嗜好、要望はその都度対応するように努力しました。

1. 平成29年度の事業実績概要

平成29年度の通所介護(介護予防)久喜の里は、利用者様が、「安全」かつ「安心」して楽しく過ごせる環境づくりを目標に、事業を計画しました。その1年間の事業実績についてご報告いたします。

平成29年度、事業計画目標および実績を報告します。

①デイサービス利用延べ人数	【目標】7325人	【実績】7029人
②利用登録者	【目標】80人	【実績】70名
③利用者満足度調査の実施	【目標】年1回	【実績】1回
④ヒヤリハット報告件数	【目標】対前年比5%増(224回)	【実績】142件
⑤選択レクリエーションの実施	【目標】60回以上	【実績】54回
⑥地域行事等への外出	【目標】15回	【実績】15回
⑦ボランティア(慰問)の来所数	【目標】50回以上	【実績】39回
⑧研修会参加	【目標】16回以上	【実績】21回

以上。

利用延べ人数だけでなく、稼働率(55.63%)も低下してしまい目標を満たない結果となりました。

29年度は、研修会への参加を積極的に行った為、目標を大きく超える事が出来ました。研修で培った内容を職員全員で共有し、より良いサービスに繋げていきます

ヒヤリハット報告件数は、目標に満たさない結果となりましたが、事故に対する日々の意識が変わり、28年度の事故報告数13件から12件へと減らすことが出来ました。事故が減っていくよう30年度はよりヒヤリハット情報の収集・分析・周知に取り組んで参ります。

目標に満たなかった内容については、30年度に重点的に取り組んでいきます。

2. 備考欄

## 1. 平成29年度の事業実績概要

平成29年度の訪問介護久喜の里は、利用者様が住み慣れた自宅で安心・安全に生活できることと介護者の負担軽減を第一に考えサービスを提供しました。実人数72名の利用者を13名で対応しました。

また、保険外で、院内介助 定期1名 短期1名の対応もしました。

詳細については、以下の通りです。

- ・月別利用状況は、合計回数・実労合計時間とも前年度よりも28%～31%の減でした。
- ・介護度別利用状況は、①身体介護が44人、③身体生活が14人、②生活援助15人でした。
- ・事業所別ケアプラン件数は、9事業所にお世話になり一番多い事業所がすずのき病院でした。
- ・年齢構成は、85～89歳が19名。80～84歳が15名。続いて、90～94歳が14名でした。
- ・平均年齢は、男性83.16歳。女性83.83歳。全体平均は、83.68歳でした。
- ・主な介護者は、子供(息子と娘)が38名で全体の半数以上。  
続いて配偶者(夫と妻)が12名でした。
- ・世帯構成は、独居35名。配偶者14名。続いて子供夫婦又は独身の子と同居18名でした。
- ・介護保険外(自費・キャンセル料他)が、230,132円ありました。
- ・久喜市高齢者生活援助は、該当者なしでした。

事業計画した以下の取り組みを行いながら、サービス提供をしました。

- ・自立した日常生活が、継続できるように手を出しすぎないように支援しました。
- ・利用者様・家族様との信頼関係の確保のため、定期モニタリングをしました。
- ・記録(方法)の見直しをし、利用者様の様子報告を携帯報告としパソコンから出力にしました。
- ・他職種との連携のため、担当者会議・地域包括会議に参加しました。
- ・苦情の対策・対応としては、定期ミーティングで情報を共有しました。
- ・職員資質の向上としては、定期ミーティングと個別に自主研修をしました。
- ・施設の研修に、参加させていただきました。
- ・H24年に取得した特定事業所加算(10%)の要件を満たし継続しました。
- ・人材確保のため、求人広告・ハローワーク登録をしていただきました。

最後に、人材不足の中、利用者様の要望の時間に要望の内容の提供を出来る限り迅速に対応しました。

## 2. 備考欄

## 1. 平成29年度の事業実績概要

平成29年度は、月平均120件を目標に、安定したケアプラン数の作成を目指してまいりました。目標としていた120件を超えた月もありましたが、月平均では112.1件となっております。昨年度と比べて大きな落ち込みはないものの、月平均はやや下回っています。

2月より事業所職員の人数が変わって以降、積極的な新規利用者の受け入れや困難ケースの受け入れを制限せざるを得ない状況にあります。

医療依存度の高いケース、重介護のケース、支援内容に苦慮するケースも増えており、一人の介護支援専門員にかかる負担が大きくなっています。介護支援専門員の補充と、事業所内で情報を共有・協力し対応していきたい。

予防プランにおいては、4月から久喜市総合支援事業が開始されました(介護予防ケアマネジメント)。これまでの予防給付ケアマネジメントと並行して、スムーズに一部移行・実施することができました(訪問介護・通所介護のみの利用者)。

## \* 保険者別

久喜市以外の利用者は、各1～2名程度。

実際には、久喜市内に居住している利用者がほとんど。

(市内の子供宅に同居・ケアハウスなど)

## \* 予防プラン

久喜市……久喜中央地域包括支援センター

久喜東包括支援センター

福島県郡山市……湖南地区地域包括支援センター

(市内鷲宮の長女宅に同居→H30.4 長女宅に住所移動)

## 2. 備考欄

## 1. 平成29年度の事業実績概要

## (1) 法人としての役割

行政とは視点が異なり、「社会・地域における、福祉の発展・充実を使命とする」公益活動を目的とした民間の非営利組織です。地域の方々が、日常生活の中で必要とする様々な福祉ニーズにおけるのサービスを提供し、支援する役割を担っていくこととなっています

## (2) 「地域における公益的な取組」の内容

- ① 社会福祉事業又は公益事業を行うに当たって提供される福祉サービスであること
  - ② 対象者が日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者であること
  - ③ 無料又は定額な料金で提供されること
- 平成29年度は、上記の役割と内容をふまえて活動を行ってまいりました

## (3) 活動の周知

- ① 久喜市第55区流地区  
平成29年度、流地区総会に出席。活動について報告する。又、各宅へ訪問し活動について説明を行う。
- ② 近隣の民生児童委員へ活動内容の説明  
近隣の地区【原地区、樋ノ口地区】の民生児童委員の方3人に活動内容を説明する
- ③ 外部の居宅介護支援事業所へ活動について説明する

## (4) 取組み実績

## ① 安否確認・見守り活動 (3名実施)

## (1) A様 (男性) の活動報告

外部ケアマネジャーより、依頼あり  
平成29年7月21日 (金) ~8月4日 (金) ※毎日、1日2回訪問 (昼・夕方) を実施

【結果】 合計 : 20回訪問実施

初めての訪問活動と活動期間が短かった為、職員4人で対応した。  
活動中、A様には不審がられることなく毎回活動を行っていた。  
A様の施設入所が決まった為、活動を終了となる。

## (2) B様 (男性) の活動報告

久喜の里デイサービスセンター利用の家族様より依頼あり  
平成29年12月18日 (月) から、週2回(月)(木)の昼前後1回訪問。現在継続中

【結果】 合計 : 36回訪問実施 ※祝日は家族在住の為、活動なし

## (3) C様 (女性) の活動報告

久喜の里デイサービスセンターケアマネジャーより依頼あり。  
平成30年2月から、1・2ヶ月に1回訪問を実施

【結果】 合計 : 3回訪問

## ② 福祉的ニーズの相談・活動 (1名実施)

## (1) D様 (女性) の活動報告

依頼は久喜地区の方。他県から来る家族の入浴を行ってほしいと依頼あり。  
平成30年1月5日 (金) 実施 ⇒ 要介護あり。自宅では入浴が難しい。

【結果】 デイサービスの機械浴 (チェアイン浴) にて実施する。

以上、平成29年度の取組み実績は4名となりました

1. 平成29年度の事業実績概要

○いきいきデイサービス

<3会場委託>

☆久喜市清久西公民館 研修室……………火曜日実施

☆久喜市立本町小学校 教室……………木曜日実施

☆久喜市鷲宮福祉センター 面会室……………水曜日実施

各会場:定員15名

- ①毎月1回相談員の情報交換会の実施。  
(各会場の相談員との意見交換会)
- ②保健師等による毎月健康維持のために役立つお話を実施活動した。
- ③いろいろな創作品や趣味活動を通して交流を図る。共同作業で孤立感を解消した。
- ④和やかな雰囲気の中で、大勢で食事を楽しんでいただいた。
- ⑤お出かけを積極的に取り入れ、心に残る思い出の企画プログラムを実施した。

2. 備考欄

### 1. 平成29年度の事業実績概要

平成29年度の特別養護老人ホーム喜びの里鷺宮は、法人理念に基づき、スローガンを掲げ、ご入居者様に安心感を与え、元気を高める。そして、自立支援を行い、生活をサポートし、自己実現を目的とし、社会福祉施設として、専門的な機能を高め、地域に信頼される質の高い介護サービスの提供に努め、また、ご入居者様に生きがいや喜び、安らぎのある豊かな日常生活を提供する為、多職種が協同し、チームでの情報共有や良好なチームワークを構築して、医療関連施設との連携に力を注ぎ、質の高いケアサービスを提供することに努めてまいりました。

### 2. 取組み実績（列挙）

- ・ 入院者数及び入院日数が長く、年度目標の利用率96%は、達成できなかったが、平成28年度の実績を上回り、約93.7%の利用率を達成した。
- ・ 平均介護度は、年度目標の4.0を達成した。平均介護度は高く、介護度4～5の方で、全体の72%を構成している。入居者の約8割が、市内及び近隣の構成となっている。その他、都内を中心に遠方からの入居者は、親族が市内及び近隣に居住している事がほとんどである。
- ・ 事故報告の構成は、転倒等、内出血及び外傷等、誤薬が9割を占める。また、事故件数に対して、ヒヤリハット報告件数が、極端に少ない。人手不足と経験不足から、事故の増加につながっている。重大事故（転倒、骨折、剥離等）の発生も数件あった。
- ・ スタッフが不足する中、内部研修及び外部研修へ比較的積極的に参加が出来た。
- ・ 施設全体の恒例行事は、28年度と同様に開催することが出来た。前年度は企画できなかった外出も実施することが出来た。レクリエーション活動は、介護度の重度化、介護職員の人員不足から取り組むことが難しかった。
- ・ 地域のイベントや防災訓練などに積極的に参加を心掛けた。今後は、地域住民参加の研修を企画していく。

### 3. 備考欄

### 1. 平成29年度の事業実績概要

平成29年度の短期入所生活介護事業所喜びの里鷺宮は、法人理念に基づき、スローガンを掲げ、ご利用者様に安心感を与え、元気を高める。そして、自立支援を行い、生活をサポートし、自己実現を目的とし、在宅福祉サービスを提供する事業所として、専門的な機能を高め、地域に信頼される質の高い介護サービスの提供に努め、また、ご利用者様に生きがいや喜び、安らぎのある豊かな日常生活を提供する為、多職種が協同し、チームでの情報共有や良好なチームワークを構築して、質の高いケアサービスを提供することに努めてまいりました。

### 2. 取組み実績（列挙）

- ・ 空床利用でのショートステイのニーズが少なく、平成29年度は、短期入所の利用実績は緊急ショート受入れの14日間のみだったが、平成30年度においては、長期入院者の空きベッドを利用して、次期入所予定者のミドルステイでのご利用や緊急性の高い在宅ご利用者様の受け入れを積極的に行い、空床ベッドの利用率の向上を継続して図っていききたい。

### 3. 備考欄

1. 平成29年度の事業実績概要

平成29年度の特養喜びの里鷺宮看護課は、医療・福祉の総合的ケアの視点を持ち、ご入居者様の心身機能に応じた自立への支援とご入居者様の尊厳を守り、生活の質の向上と生活機能の低下を予防し、療養生活支援の専門家として、知識・技術を高め、的確な看護判断技術をもって適切な看護サービスを提供を心がけてまいりました。また、多職種と協同し、ご入居者様の健康の増進に日々努めてまいりました。

2. 取組み実績（列挙）

- ・ 入居者健診：武南病院附属クリニックにて巡回健診の実施（年1回）88名実施。  
 職員健診：武南病院附属クリニックにて巡回健診の実施（年1回）61名実施。  
 夜勤業務従事者健診：武南病院附属クリニックにて巡回健診の実施（年1回）33名実施。  
 職員ストレスチェック：武南病院附属クリニックにて実施（年1回）50名実施。
- ・ 入居者インフルエンザ予防接種：ほつかクリニック嘱託医師により実施（年1回）88名実施。  
 肺炎球菌ワクチン定期接種：ほつかクリニック嘱託医師により実施（該当者）12名実施。  
 職員インフルエンザ予防接種：武南病院附属クリニックにより実施（年1回）66名実施。
- ・ 嘱託医師往診（毎週水曜日の午前中にほつかクリニックの櫻岡怜子医師により実施）
- ・ 歯科往診（毎週水曜日の午後にアイルめぐみ歯科により実施）  
 （はまだ歯科クリニック及び本町歯科診療所、新白岡口腔リハ歯科クリニックにより適宜実施（対象者各1名）
- ・ 外来受診：延べ受信者数 397名（前年度比：-185日）
- ・ 入院状況：延べ入院者数 82名（前年度比：-12名）  
 延べ入院日数 1971日（前年度比：-519日）

3. 備考欄

### 1. 平成29年度の事業実績概要

- ・ 食事による栄養状態の改善・維持に努める。
- ・ 給食業務の内容を向上する。

### 2. 取組み実績（列挙）

- ・ 献立会議の定期開催により、毎日のメニューや行事・イベント食・季節のメニューの充実を図った。
- ・ 給食会議の定期開催により、食事形態や提供方法等の問題点を検討改善した。
- ・ 栄養マネジメントにより、栄養状態の維持と向上が実施できた反面、入院数が増加した。
  - ①提供栄養量は、ほぼ目標基準値に近い数値で提供できた
  - ②7割の入居者が、栄養状態良好を維持している。高リスク=3%・中リスク=14%から24%に増加。低リスク=84%から74%に減少している。
  - ③定期採血などの結果から、疾病治療の対象利用者が増加したが、疾患治療の直接手段として、主治医より発行される食事箋に基づき、療養食の献立作成と適切な食事提供を行った。
- ・ 給食業務内容は安定したが、人事の充実が不十分である。

### 3. 備考欄

## 1. 平成29年度の事業実績概要

3年目を迎えたデイサービスでは、地域密着型デイにふさわしい介護を提供すべく、個々の利用者様に近いケアを心がけてまいりました。結果、昨年度よりも更に、地域や居宅支援事業所担当者への認知度も広がりを見せ、前年比、約700名増の延べ利用者数を挙げる事ができました。

しかしながら、掲げていた目標数値にはまだ届いていない部分もあり、次年度以降も、一人一人の利用者様の特徴を把握した「個別ケア」を大切に、さらなる地域への浸透と、利用者数増加及び経営安定に向けて取り組んでいきたいと考えております。

## 2. 取組み実績

1. 数値目標 【延べ利用者数】 目標2,940人 → 結果2,689人

【登録者数】 目標35人 → 結果38人

光熱水費削減・・・改善余地あり

2. サービス目標値

- ・ヒヤリハット報告書7件（目標30件）
- ・利用者満足度調査0回（目標1回）
- ・クラブ活動創設3種類（目標4種類）
- ・家族サポート訪問2人
- ・定期ボランティア3組（目標2組）
- ・地域行事への参加1回（目標1回）

研修会参加 4回

外出等行事 15回

新規利用者 20人（中止者7人）

介護事故件数 0 車両事故 1件

平成29年3月末時

## 3. 備考欄

・運営推進会議や、ボランティアさんの獲得により、ひらかれたデイを目指します。